



## 大月小学校 道徳科 授業づくり講座 教材研究会・授業研究会

大月小学校のコンセプト：子供たちに「問い」を持たせる授業の工夫

### 第3学年「心と形が一つになって」(廣済堂あかつき)

【主題名】礼儀作法に込められた心 【内容項目】礼儀B(8)

授業者：葛井 祐介 教諭 講師：高知大学教授 森 有希 先生

今回は、大月町立大月小学校で行われた、7月29日(木)教材研究会と、10月20日(水)授業研究会での授業づくりの様子を紹介します。

### 大月小学校3年生「役割演技」に挑戦

今回の挑戦では、日常の三つの場面について役割演技をすることで、体験的に自分事として捉え、また、立場を変えて役割演技をしてみることで多面的・多角的に考えることができ、礼儀には相手を大切に思う心が込められていることに気づき、礼儀の良さや大切さについて考えられるのではないかと考えました。

- ★効果的な役割演技にするにはどうしたらよいか
- ★三つの場面について児童の気づきの深まりはどうか



模擬授業後の協議では、次のような意見が出されました。

学校や家で挨拶をしているかというアンケートは自分事になるのでよい

役割演技は自分事として考えることができている

①児童自身に「問い」を持たせるにはどうするか

②役割演技をすることに意味を持たせるには、どうしたらいいか

③心と形が一つになっていくための工夫をどうするか

教材研究会

授業研究会

本時のねらい

礼儀に込められた心や礼儀正しいふるまいについて考えることを通して、誰に対しても真心をもって礼儀正しく接しようとする道徳的態度を養う。

男の子がおばあさんの荷物を持ってあげる場面を、一人一台タブレットで動画撮影することで、どんな効果がありそうかを実際に参加者同士で体験してみました。



#### ★「指導の要点」を明確に

森 有希 教授より

#### ★協議で出された疑問については…

今日の授業で何をねらうかを授業者が明確に持つておくことは、どの教科でも大切です。

今回でいうと…「礼儀の何を考えさせるのか」

本質を追求するのか、それとも全部なのか、明確にすることが大切です。

- 本質：「礼儀」とはどのようなことか
- 適用・表現：「礼儀」をどのように表すか
- 効果：「礼儀」を実践するとどうなるか



①導入でアンケート結果から挨拶をしたりしなかったりすることが分かる…『何で挨拶をするのかな』と素朴な問いが生まれる⇒その後、挨拶の場面絵を見てどう思うかを考えることで、『行ってきます』『行ってらっしゃい』としか言っていないのに、どうして気持ちが伝わるのかな。』と、児童自身に問いが生まれる。

②役割演技のよさは「即興性」にある。「お持ちします」「ありがとう」の言葉を見せずに「何と言っているかな。」と発問して、児童の言葉で出させるとよい。

三つの場面の役割演技の順番を工夫することで、児童の考えを深める。(1)形にある心を探る(2)言葉にある心を探る(3)心を含めた形を探る⇒役割演技をする中で心と形の両方から探っていく。

③心と形が一つになっていく工夫⇒構造的な板書の工夫をすることで、「ただ言っているだけでなく、そこには心がこもっているんだ。そして、心と形が両方入っているんだな。」ということが視覚的に分かるようにする。

#### 【指導の要点】

礼儀は、相手のことを敬ったり思いやったりする「心」を、挨拶や言葉遣い、ふるまいなどの「形」で表させたものであることに気付かせ、その礼儀がお互いの気持ちを明るくし、結びつきを深めることについて考えを深めさせる。

#### 〈授業を通して引き出した児童の考え〉

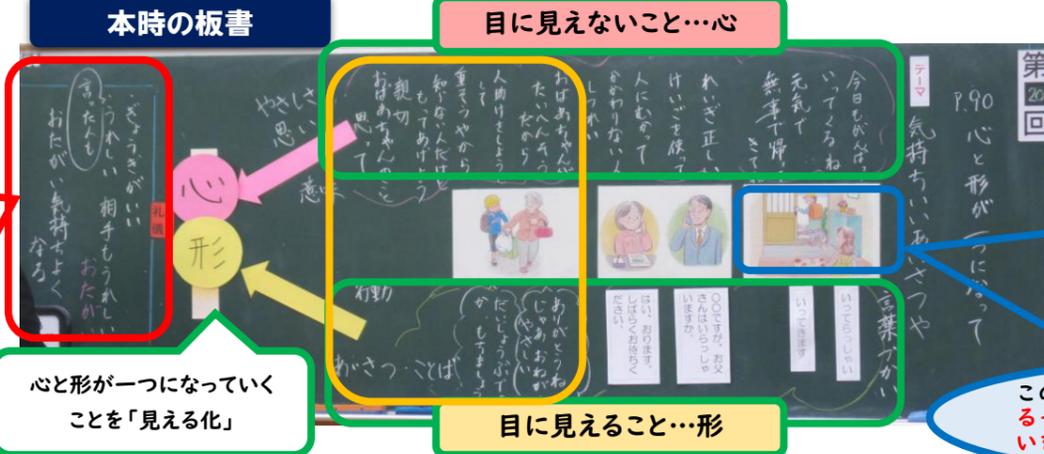
- 挨拶や丁寧な言葉遣いには、相手のことを思う気持ちが込められている。
- 礼儀には、相手を思いやる気持ちと丁寧な言葉遣いが合わさっている。
- 誰に対しても心を込めて礼儀正しくできるようにしたい。

指導上の工夫		
自分自身との関わりで考えるための工夫	多面的・多角的に捉えるための工夫	主題に迫るための工夫
<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケートから挨拶の現状を共有することで、自分事として捉えられるようにする。(ICT)</li> <li>・導入と終末で礼儀正しいとはどういうことかを問い、自分の考えを深めるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの会話やふるまい(形)とそれに対する思い(心)を比較できるように整理して板書する。</li> <li>・役を交代して役割演技をすることで、それぞれの立場によって様々な思いがあることに触れるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はじめに問いを共有し、挨拶や丁寧な言葉遣いやふるまいには、どのような気持ちが込められているかという視点に揃えることで、みんなが同じ視点を持って話し合いができるようにする。</li> <li>・なぜ礼儀正しくするのか問い返し、深めることで、礼儀のよさやそこに込められた思いに気付くことができるようにする。</li> <li>・礼儀正しい挨拶や言葉遣いには、形だけでなく相手を思いやる心が込められていることに気付くことができるような構造的な板書をする。</li> </ul>

#### 本時の板書

#### 目に見えないこと…心

#### 目に見えること…形



問いを持たせる工夫(問いの共有) 場面絵①から、どんな思いが伝わるかを考える。

- T:何で言っているのかな
- C:「行ってきます」「行ってらっしゃい」
- T:どんなことを思っているんだろう
- C:今日も頑張るぞ(子供)
- C:元気でね 無事に帰ってきてね(母)

T:何で挨拶しただけなのに、どうして気持ちが伝わるのかな

この発問で、「言ってもないのに伝わるってどういうことかな」と確実に問いを持つことができました。

授業者 葛西教諭

- T:礼儀って何だろう
  - C:言葉遣い 姿勢 優しさ
  - T:礼儀って何で大切なのかな(中心発問)
- 子供が礼儀の「本質」だけでなく、「効果」にも気付くことができました。

森 有希 教授より

道徳科の授業づくりで大切にしたいことを教えていただきました。

#### ★前提にある学級経営

友達同士で意見が言い合え、自然と拍手が起こり、お互いに笑顔が生まれる、そういったしっかりとした学級経営が大切です。

#### ★授業者の明確な意図

授業づくりで大切な4観点(※他者への置換※自分への置換※比較※追求・吟味)をしっかり意識して授業を行うことで、子供が自己との関わりで考えたり、多面的・多角的に考えたりし、深い学びへとつながります。

#### ★問いを持つには…

段差・違い・ズレを利用し、考えさせることです。そうすることで、問いが生まれます。さらに、問いを生かしていくためには、最後にもう一度聞くなど、工夫することも大切です。

#### ★効果的な役割演技

自分事として語れるだけでなく、立場を変えたら多面的・多角的にも考えられます。⇒今の学習指導要領が目指す学習の在り方としてとても効果的です。

森先生が、「役割演技のお手本のような、見事な授業でした。本当に素晴らしい授業でした。」とおっしゃっていました。子供達が何でも言い合え、聴き合えるあたたかい学級経営がされていること、そして、葛西先生自身がしっかりと児童理解をした上で指導の要点を明確に持っていたことで、子供達が問いを持ち、楽しんで役割演技をしていたと思います。素晴らしい授業をありがとうございました。

#### ☆参加者の声☆

道徳の授業の見方、考え方について多く学ぶことができたと思います。「学んだことは実践あるのみ」の気持ちで、自分の授業づくりに生かしていきたいです。

授業づくり講座での学びを、ぜひ、日々の授業に、そして、西部の道徳教育に生かしていきたいです。

授業を提案していただいた大月小学校の先生方、そして参加していただいた先生方、森先生、本当にありがとうございました。